

当地区は、太田道灌の時代には芝の海岸という意味で「芝の浦」と呼ばれ、江戸時代には漁業が盛んになり、明治時代には温泉旅館が軒を並べ、月見や海水浴の名所として賑わったという。しかし、その後の埋立により自然環境が消失したため、その一部を新芝・芝浦・高浜運河沿いの緑地として新たに創出している。

整備に際しては、運河空間の特長を生かした親水性のある構造とし、運河沿いの古い埋立護岸の前に新たな護岸を整備し、水辺空間を創出した。また、住民や働く人々が水に親しむ憩いの場として利用できるように護岸の高さをできる限り低くしたり、護岸の一部を階段式に切り下げることで、震災時に小型船の船着場として活用できるようにしている。さらに、護岸背後の管理区間を利用し、遊歩道や植栽など周辺環境に配慮した整備をするとともに、護岸背後の道路空間に余裕があるところについては、道路と一体性をもった緑地整備を行った。

日常では、散歩・ジョギング等に利用されるほか、お昼時には日光の下での昼食や休息など、地域住民や地域で働く人々の憩いの場として利用されている。



護岸を低くし、植栽、遊歩道を配置している



港区によって整備されたガス灯と「リバーサイドトリオ」



背後の道路空間と一帯となった整備を行った



DATA-6

- ① 東京都港区芝浦
- ② JR田町駅より徒歩5分
- ③ ・芝浦工業大学
- ④ 該当なし
- ⑤ 港区役所街づくり推進部道路公園課 TEL 03-3578-2325